



～地域での支え合いの仕組みづくり

(生活支援体制整備事業) がはじまっています～

私たちが生活支援コーディネーターです!

令和6年9月発行



社協・川辺



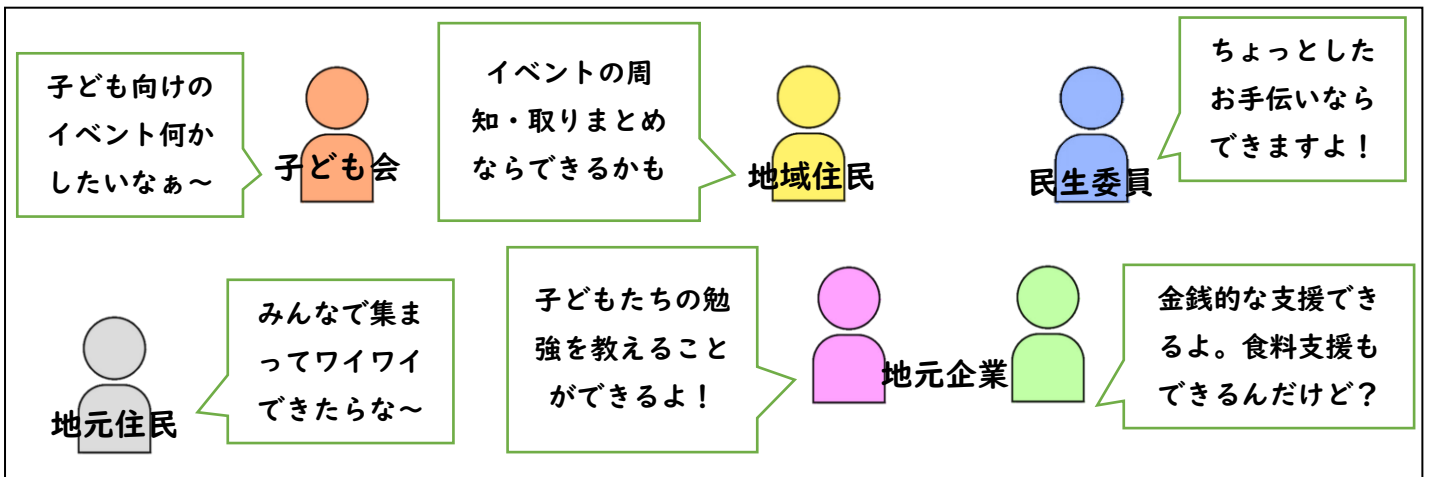
包括・岸田



包括・平山

前号の地域通信で、生活支援コーディネーターは、“支え合いの輪”を作る繋ぎ役という紹介をしました。例えば、「〇〇があったら」、「〇〇で困っている」、「〇〇と××で協力できたら」など、**あったらいいなの声を繋いでいく**のが生活支援コーディネーターの役割です。

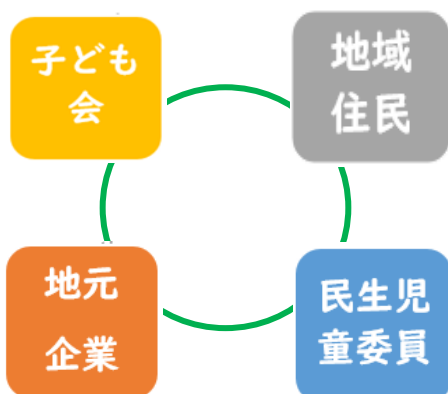
日々地域に出て活動している生活支援コーディネーターには、下記のような団体・個人の「できること」「やりたいこと」がそれぞれ別々の情報として入っていました。



せっかくの社会資源! みんなが繋がったら何かできるはず! と生活支援コーディネーターは考えました。そして、子ども会、地元企業、地域住民、民生児童委員、包括、社協が繋がった結果、浅生原地区でイベントが開催されました。

イベントの名前は「寺子屋 (てらこや)」

みんなで「遊ぶ」、まじめに「学ぶ」、おいしく「食べる」を大切にしたいイベントです。



寺子屋

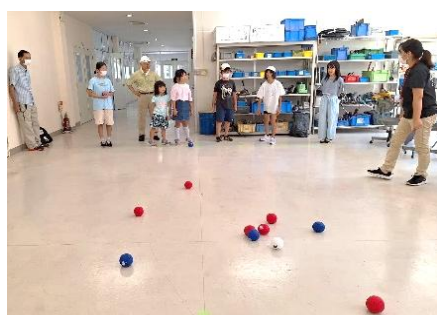
TE·RA·KO·YA

寺子屋の詳細内容は、次のページ→

# 浅生原地区「寺子屋」

「みんなで楽しく」を目指して、浅生原地区で寺子屋を開催するようになって今年で2年目。今回の「寺子屋」は、28名の参加者が集い、それぞれの夏休みの課題を勉強した後、ボッチャ交流会を行いました。はじめは緊張して硬い雰囲気でしたが、プレーを重ねるうちに盛り上がり、自然と「がんばれー！！」と応援し合ったり、的玉に当てると歓声があがったりしていました。お昼は、待ちに待ったバーベキューで、おなか一杯頂きました。

午後からは、モルックに挑戦、木製の棒（モルック）で、木製のピンを倒し、先に50点になったチームが勝ちになる競技です。初めての挑戦でもルールをマスターし、「頭も使い勉強になる」と、子ども達や大人からも声が聞かれ、「とても楽しかった」、「また、やってみたい」と感想もありました。最後に、ビンゴゲームとくじ引き、お菓子のプレゼントもあり、子どもたちは大変喜んでいました。また、子供たちから、たくさんの支援をしてくれた地元企業へ「感謝の色紙」を手渡されるなど、地域交流ができた1日となりました。



ボッチャ交流会



地元企業から提供のプレゼント！



モルックに挑戦



火起こし、バーベキューの準備、男性陣頑張りました！



焼肉・焼きそば美味しいね！



子ども会から、地元企業へ「感謝の色紙」の逆プレゼント！

浅生原地区の「寺子屋」は、子ども会・地域住民・地元企業・民生児童委員・社協・包括が繋がった結果、開催できたイベントです。ひとりひとりでは大変なことも、みんなで少しずつ「自分ができること」を出し合えば、担い手不足の今日でもできることはあります。

「できないことからできることに！」生活支援コーディネーターはこれからも繋いでいきます！

地域包括支援センター  
電話 0223-37-1171



社会福祉協議会  
電話 0223-37-2785